

美術史セミナー「いま大阪画壇が面白い」

講師：関西大学教授・中谷伸生氏、大阪近代美術館準備室・橋爪節也氏、木村兼葎堂顕彰会代表・水田紀久氏、大阪工業大学助教授・松浦清氏ほか

市内の旧家の床の間を飾る作品として、あまり知られていない大阪画壇の作品があります。戦前に大阪から蔵ごと引っ越して来た大阪商人の影響によるもので、戦災で失われてしまった大阪の町家のしつらいが芦屋に生きている証拠でもあります。

四条山派の京都画壇のみ脚光を集める昨今、大阪画壇の知られざる特徴とその意義を、多彩な講師陣により魅力的に紹介します。

講座では、江戸期の作品を中心に、作品の取り扱いや、現地(作品見学)講座を交え、できれば本館での関連展示もと考えています。

セミナーのご案内<全8回>

日時 4月9日~11月12日(第2土曜) 午後1時30分~3時
別途実習・現地見学会あり
会場 美術博物館、現地
受講料 15,000円(実費別)
定員 30人(応募多数の場合抽選)
応募方法
往復はがきに、住所・氏名・年齢・連絡先(電話)を明記し、3月28日(月)<消印有効>までに下記へ

問い合わせ 美術博物館
「日本美術史セミナー」係 ☎38-5432
(〒659-0052 伊勢町12-25)

男女共同参画啓発企画

問い合わせ 女性センター ☎38-2023

「女と男のメンタルヘルスを考える」

「生涯を通じた心身の健康づくり対策の推進」を重点課題に掲げた第2次芦屋市男女共同参画行動計画(平成15~24年度)に基づき、市では関係機関と連携して予防対策や相談体制の充実を進めています。しかし、日々の生活の中で起こるさまざまな出来事によってストレスがたまると、時には心が不安定になったり、体にも変調をきたすことがあります。そんな時、心の健康を取り戻すためにどうすればいいのか、女性のための心身(こころ)の健康相談活動をされている玉木敦子先生からアドバイスをいただきました。

プロフィール 玉木敦子(たまき あつこ)氏



兵庫県看護大学助教授 玉木 敦子氏

千葉大学看護学部卒業。病院勤務(看護師)後、兵庫県立看護大学講師等を経て現職。芦屋市在住。

兵庫県立男女共同参画センター特別相談員や病院外来等での相談活動も行う。専門は精神看護学。

【ストレスは誰もが持っているもの】

人間にとってストレスは当たり前、生きていく上で必要なものです。良いストレスがなければ、人間は成長できません。たとえば就職試験に臨む学生など、新しいところに一歩踏み出そうとする時には必ず葛藤があります。ストレスがあるから達成感もあるわけで、人間にとってストレスはいわば“友人”です。

【ストレスが高じると】

しかし、それがあまりにも大きすぎたり、長く続いたりするとコントロールできなくなり、うつ病など心身の不調を引き起こします。脳も身体の一部ですから、使いすぎると疲れてしまうのです。またうつ病はもともと女性に多く、一生のうち一度でもうつ病になる人の割合は女性では約20%と言われており、それは男性のほぼ2倍です。女性がうつ病になりやすい原因の一つに生殖ホルモンの影響が考えられます。女性は周期的にホルモンバランスが変化しますし、出産や更年期にはかなり大きく変化します。出産前後や更年期にうつ病の発症が多いのは、そのようなホルモンバランスの急激な変化が関係していると考えられているのです。

一方で、社会的・文化的要因の影響も大きいといわれています。「昇進うつ病」「引越うつ病」という言葉があるように、うつ病にはライフイベントが大きく関係します。出産前後や更年期は、ホルモンバランスだけでなく生活環境も大きく変化する時期ですから、それがうつ病の発症にも関係すると考えられているのです。

【子育て中のストレスが引き起こす思わぬ事件】

子育て中のストレスが大きくなって精神状態が不安定になると、子どもにあたってしまう母親もいるようです。核家族化が進むとともにコミュニティの機能も低下しており、そのような中、たった一人で子育てしなければならぬ母親の不安はとて大きいのです。それは子どもの成長にも大きな影響を及ぼしますから、孤立した母親をサポートするための仕組みを、社会全体として早く作らなければならないと思います。

【増える相談窓口】

最近、企業が社員のメンタルヘルスに本格的に取り組み始めたり、芸能人のなかに「私はうつだった」と公表する人も出てきて、その意味では「心の問題」への偏見も多少和らいできたように思います。そのせいか、こころの不調を感じた時、精神科などの医療機関を訪れる人の数も以前に比べれば増えてきているようです。でも病気のレベルにまでなってしまうと回復に時間もかかるしお金もかかるし、本人の努力も相当必要になります。「最近疲れやすいな、今までと何か違うな」と感じたところで、心の健康を取り戻すための適切なサポートを利用することが大切なのです。最近、市町村の女性センター・男女共同参画センターなどに「女性の悩みの相談」や「女性のための心身の健康相談」が設置されるなど、相談窓口が増えてきていますので、そのような資源を気軽に利用されるといいと思います。

【周囲のサポートが回復力を引き出す】

人の心の健康にとって最も大切なのは、やはり「人との関わり」だと思っています。そこが人間である所以だと実感しています。ストレスを抱えて、悩んで、悩んで・・・これ以上頑張ると病気になるってしまう・・・という前に、思いを受け止めてくれる場所、相手を探すことです。周囲のサポートはその人がもともと持っている力を回復させてくれます。私自身、そのためのお手伝いを今後も続けていきたいと思っています。

紙上美術館

六歌仙

問い合わせ 美術博物館 ☎38-5432



『六歌仙之図』耳鳥齋 一軸 江戸時代 紙本墨畫 (美術博物館蔵)

平安時代の和歌の名人を考えた時、誰もが口にするのは六歌仙ではないでしょうか。いにしえより、数多(あまた)の人に愛され、理想の歌人とされてきたのが在原業平をはじめとする、備正遍昭、喜撰法師、大伴黒主、文屋康秀、小野小町の面々です。これら6人は、口承と写本の時代を経て絵画や版本によって広く庶民にまで周知されていくこととなりました。

本図は、江戸期の「六歌仙図」ですが、ご覧のとおり牧歌的な雰囲気の中に諧謔(かいぎやく)精神を盛り込んだもので、いわゆる戯画といわれる作品です。

ちなみに本市ゆかりの在原業平は、手前左の頼りなさげな武人姿で登場します。

作者の耳鳥齋(じちょうさい)は、寛政から享和頃(19世紀前半)にかけて大坂で活躍した人で、京町堀に暮らし、酒造業を営んだ後、骨董商になったといわれています。

生没年は未詳ですが、残した作品には本図に見られるような軽妙洒落な筆致のものも多く、戯作や芝居を手がけた形跡とともに絵本の出版でも知られています。

自らも演劇に少なからざる興味を有した耳鳥齋の作品は、静よりも動の感覚を捉えたものが多く、その物事にとらわれない自由な発想は、時代を超えて見る者を引き込む面白さに満ちています。

広告

三菱重工グループが総力をあげてお届けする介護付有料老人ホーム

軽介護から重介護、認知症(痴呆症)の方まで受入可能な介護専用棟の募集です!

- 9~13戸の少戸数で構成されたユニット単位での最適ケア
- 全室個室、くつろぎの広さを確保
- 1Fディメントケアフロアでは、認知症(痴呆症)の進行を遅らせるといわれている園芸療法を取り入れています

- 有料老人ホーム設置運営指導指針による表示
- 施設の類型/介護付有料老人ホーム
 - 居住の権利形態/終身利用権方式
 - 入居時の条件/自立・要介護
 - 介護保険/兵庫県指定介護保険特定施設
 - 介護居室/全室個室
 - 介護にかかわる職員体制/2:1以上
 - 兵庫県2870801426号(平成16年10月1日指定)
 - 指定特定施設入所者生活介護事業者

交 ■ JR「舞子」駅からバス[53系統]約20分(約5.0km)「多聞東小学校前」下車徒歩約12分(約850m)
通 ■ 神戸市営地下鉄西神・山手線「学園都市」駅からバス[53系統]約14分(約4.0km)「多聞東小学校前」下車徒歩約12分(約850m)

〒655-0004 兵庫県神戸市垂水区学が丘5丁目1番3号

体験入居、ご見学・資料請求のお問い合わせは

0120-567-828

営業時間/午前9時~午後6時 携帯・PHSからでもご利用いただけます。

(社)全国有料老人ホーム協会
三菱重工グループ
近畿三菱重工業株式会社
http://www.diage-kobe.com/



- 近畿三菱重工業は三菱重工業(株)100%出資の子会社です。
- 介護業務全般(健康管理業務含む)は100%出資の子会社、神戸三菱サービス(株)が行います。